

2016年4月、震度7を観測する地震が熊本と大分で発生し、A-PADジャパンは、いち早く熊本での緊急支援活動を開始。被災地内外の企業・自治体・NPOなどと協力してさまざまな活動を展開しました。2018年3月まで実施した「NPOパートナー協働事業」の終了とともに熊本支援事業は幕を閉じましたが、ご支援いただいたみなさまに、これまでの活動について改めてご報告いたします。



緊急支援物資の調達・配送

発災直後から自治体や企業などと協力して物資支援の活動を開始し、指定避難所のほか、物資が十分に届いていなかった認可外の小規模避難所などにも衣料品や水・食糧などの物資を配布しました。



パートナー協働事業

「佐賀から元気を送ろうキャンペーン」と協力して被災地にボランティアを派遣。述べ48人がテント村やユニットハウスの環境整備を担い、避難者の日々の困り事の解決に奔走しました。



レスキュープロジェクト

相次ぐ大規模な地震を受け、ヘリで災害救助犬・レスキューチームが出動。土砂崩れや家屋の倒壊などの被害がひどかった南阿蘇村と益城町で、行方不明者の捜索を行いました。



テント村・ユニットハウス村の運営

発災翌日、数百人以上の避難者であふれかえっていた益城町の体育館横に緊急避難用のバルーンシェルターを設置。さらにエマーゼンシーテント160張をたて、ペットと寝泊まりできるテント村を運営。述べ76世帯277人91匹が避難生活を送りました。梅雨時期からはユニットハウス80棟を設置し、仮設住宅完成までの間のつなぎ役を果たしました。





Voice ～被災地からたくさんの声が届きました

「子どもたちの新しい居場所」

「できたての炊き出しやお弁当がうれしい。夏休み中の子どもたちの遊び場もつくってくれて、世話までしてくれて感謝です」-byユニットハウス村・談話室の定期利用者



「やっと手足が伸ばせる。愛犬も一緒に！」

「2週間以上、車中泊を続けてきて本当に疲れた。やっと手足を伸ばして横になれる。しかも愛犬も一緒に」-byエマージェンシーテントに避難してきた女性



「新しい仲間もできた」

「梅雨や猛暑で避難テントでの生活が大変になってきたころ、ユニットハウスへ。ペットと気兼ねなく過ごせる空間はありがたい。仲間もできた」-byユニットハウス村入居者

「気持ちいい！」

「酷暑の中、シャワーがとっても気持ちいい。トイレや洗濯機、洗い場などもあって良かった」-byテント村入居者

「物資の定期便に感謝！」

「タオルや肌着、オムツ、果物、水・・・やっと支援物資が届きました。その後も定期的に必要な品を届けてくれて感謝！」-by支援が行き届いていなかった小規模避難所の管理者

ご寄付のお礼とご報告

gcf/457

佐賀県「ふるさと納税」を通じたご寄付 4,003万9,600円

A-PAD ジャパンの熊本地震支援活動に対し、「ふるさと納税」(佐賀県 NPO 支援枠)を通じて、1866人の方から 4,003 万 9,600 円のご寄付を頂戴しました(2016年4月15日～12月31日)。ご支援いただいた皆様に心よりお礼申し上げます。

熊本地震での経験は翌年の九州北部豪雨、今年の西日本豪雨や北海道地震でも生かされています。

救助犬や佐賀大学の医師などで構成されるA-PAD ジャパンの緊急チーム「空飛ぶ医師団」は、佐賀県のふるさと納税を通じた寄付など、多くの皆さまに支えられています。継続したご寄付が災害時に役立ちます。1月末まで、「ふるさとチョイス」でガバメントクラウドファンディングを実施中。

<https://www.furusato-tax.jp/gcf/457>

(期間：2018年11月1日～2019年1月31日)



A-PADジャパン

840-0831 佐賀県佐賀市松原1-3-5ゼロワン佐賀ビル6F Tel:0952-20-2900 toiwase@apadm.org
<http://a-padj.org/index.html>



<https://www.facebook.com/apadjapan/>